

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	8	課題区分	C	
横断的な課題	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり					
地域重点政策	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり					
実施機関	佐久地域振興局			担当課	所属	商工観光課
事業名	佐久地域日本酒・ワインツーリズム事業				電話	0267-63-3157、3158
					E-mail	sakuchi-shokan@pref.nagano.lg.jp
事業の概要	目的 (目指す姿)	佐久地域星空トレイン「晴星」を活用し、佐久地域の酒類(日本酒・ワイン・クラフトビール等)や特産品の魅力、特産品の販路拡大と広域観光の推進を図る。				
	現状と課題	○コロナ禍において、佐久地域の酒類(日本酒・ワイン・クラフトビール等)や特産品の消費が落ち込んだ。観光客数などが段階的に回復する中、PR活動を継続することにより、佐久地域とその特産品(酒類・農畜産物加工品等)への県内外のファンを増やし、誘客拡大を図ることが必要。 ○佐久地域は、千曲川ワインバレーの一角を占めているが、小規模な生産者が多く、より知名度を上げるべく、良質なワイン生産地であることをPRし、消費拡大につなげることが必要。 ○令和4年度に実施した「佐久地域お酒飲み比べほろ酔いツアー」は大変好評で、同種の事業を実施することにより、リピーターの獲得などさらなる観光誘客が見込める。				
	内容 (変更後の内容)	○しなの鉄道で運行している、佐久地域星空トレイン「晴星」(令和3年秋より運行しているラッピング列車)を活用したイベント列車(長野～軽井沢間)を運行し、列車内で、佐久地域の特産品である酒類や農畜産物加工品等を提供・PRするツアーを実施。 小諸駅で一時下車し、小諸駅前の「停車場ガーデン」における販売イベントの開催や小諸駅構内のワインバーへの立ち寄りなど、特産品の消費拡大につながるイベントを実施。(イベント列車乗客以外も参加可とする。) ○令和6年2月に小諸市で開催されるワールドウイスキーフォーラムのアフターイベントの開催支援及びイベント内での佐久地域の日本酒・ワインのPRを実施。世界から高い評価を受けている日本ウイスキーの発信とともに、地域のにぎわいの創出を目指す。 ①佐久地域の日本酒及びワインの試飲と佐久地域の特産品の販売を行うブースを出展②佐久地域の特産品をアフターイベント内で実施するスタンプラリーの景品の一部として提供③周遊効率増強のため無料周遊バスを増便 ○令和5年度公募職員からの事業提案の課題である「若者たちが考える佐久地域の日本酒の消費拡大戦略」に関して、当該戦略の企画立案のために、佐久地域を拠点に活動をしている「まちづくり系の専門家」等を交えて、意見交換を実施。				
事業期間	令和5年8月		～	令和6年3月		
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考		
	佐久地域日本酒・ワインツーリズム事業	「晴星」を活用した佐久地域の酒類及び特産品をPRするツアー及び販売イベントの実施	1,220,993			
		ワールドウイスキーフォーラムに合わせた無料周遊バスの運行、スタンプラリーの景品の一部提供、糸屋の試飲及び販売ブースの出店	437,611			
若者たちが考える佐久地域の日本酒の消費拡大戦略	消費拡大戦略の企画立案に関する「まちづくり系専門家」との意見交換	14,800				
合計		1,673,404				

指標及び達成状況	成果指標	目標値	成果	達成状況
	ツアー参加者	60人	62人	● 達成 ○ 一部達成 ○ 未達成
	ブース来訪者	300人	900人	
	佐久地域の日本酒の消費拡大戦略策定	1件	1件	
事業実績・成果	<p>【「晴星」を活用したイベント列車】 佐久地域星空トレイン「晴星」を使用し、「ほろ酔い飲み比べ列車」を実施。県内および首都圏から想定を上回る参加申込みがあった。 車内では佐久地域の全ての日本酒蔵とワイナリーの酒と、2社のクラフトビールを提供した。好きな銘柄を見つけていただくことで、今後の購買につながることを期待される。さらには口コミ・SNSにより高品質な佐久地域の酒類の魅力を拡散してもらうことができた。 俳句講座も同時開催をし、紅葉の季節の風景を楽しみながら吟行を行った。コンテストの上位者に日本酒・ワインをプレゼントしたことも好評であった。</p> <p>【ワールドウイスキーフォーラムアフターイベント】 小諸蒸留所ウイスキーフェスティバルの開催に併せ、脇本陣の宿桑屋の特設会場にて佐久地域のワイン・日本酒と特産品の試飲・試食、販売会を実施。ピークにはブース内が人で溢れるほど盛況であり、県内外のほか、外国人観光客に向けても、高品質な佐久地域の酒類をPRすることができた。また、主会場と特設会場を周遊するバスを増便したことにより、フェスティバル参加者のほとんどが特設会場での催しにも足を運び、地域のにぎわいを創出することができた。</p> <p>【若者たちが考える佐久地域の日本酒の消費拡大戦略】 ワークテラス佐久管理運営責任者で「まちづくり系専門家」である柳澤拓道氏と公募職員2名が、11月13日にワークテラス佐久の会議室にて意見交換を行った。 同公募職員が酒造及び日本酒関係実需者等からのヒアリングをもとにまとめた戦略(案)について、柳澤氏に説明し、柳澤氏の意見を伺った。 柳澤氏から、「この事業を通じて皆さんはどんな社会を創りたいのか」との問いもあり、戦略の方向性が消費拡大のみならず、佐久地域の日本酒がもつ魅力を理解する消費者(若者層)の拡大が必要との認識が深まった。また県内の大学生と連携して佐久地域の日本酒振興をすすめるスキーム構築の戦略(案)が固まり、12月12日に局内で事業提案がされた。</p>			
今後の方向性	今年度ウイスキー蒸留所が新たにオープンするなど、佐久地域の酒類のブランド化の好機となっている。引き続きイベント列車や地域イベントを活用して魅力を発信していく。			